

2026年3月期
経営戦略説明会

共英製鋼株式会社

(東証プライム：5440)

2026.5.13

目次

1 決算説明

2 中期経営計画「NeXuSⅡ 2026」

1. 2025年度の総括/2026年度の取り組み
 2. 事業別施策
 3. 成長を支える基盤強化の取り組み
-

3 参考資料

1

決算説明

前期対比で減収となったものの、営業利益・経常利益は増益

期間：2025年4月1日～2026年3月31日

	単位	2025年3月期	2026年3月期	前回予想	増減	
		通期	通期	通期	対前期	対予想
売上高	億円	3,228	3,151	3,170	▲77 ▲2.4%	▲19 ▲0.6%
営業利益		153	170	170	+16 +10.7%	▲0 ▲0.2%
経常利益		157	162	160	+5 +3.0%	+2 +1.3%
当期純利益		108 ^{※2}	99	105	▲9 ▲8.6%	▲6 ▲6.1%

※1 比較欄の上段は増減数量、下段は増減比率

※2 25年3期は特別利益（米国拠点の火災事故に係る保険金など）を通期で35億円計上

セグメント別業績概要

- 国内：工期の遅延・長期化の影響による出荷量減少、円安や中東情勢を背景にスクラップ価格の上昇幅が拡大し売買差が縮小、前期対比で減収減益
- 海外：ベトナム・カナダ拠点は堅調に推移、米国拠点は下期で黒字化し、前期対比で増収増益
- 環境リサイクル：厳しい競合環境が続く中、4Qでのスポット案件を獲得するも前期対比若干減益

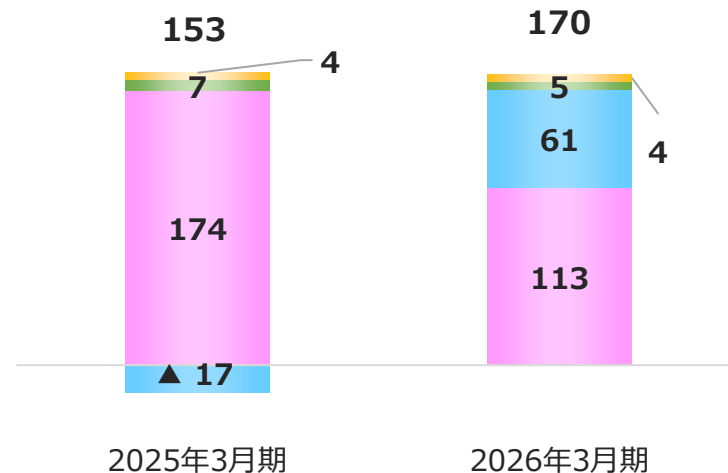
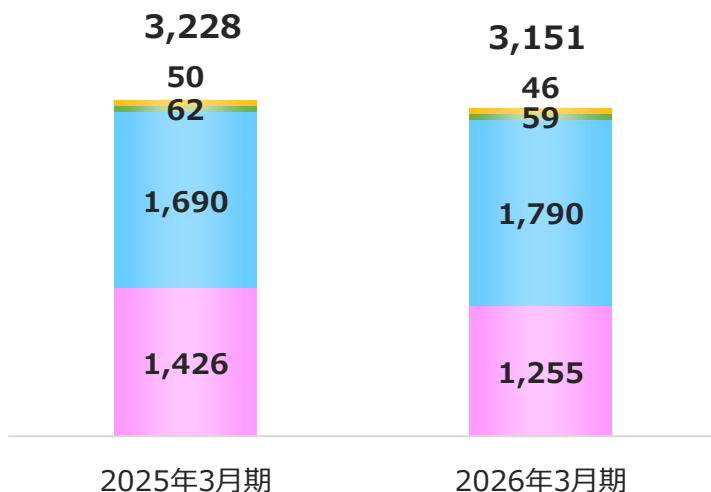
売上高 (億円)

営業利益 (億円)

	2025年3月期					2026年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
国内鉄鋼事業	382	347	357	340	1,426	327	311	315	303	1,255
海外鉄鋼事業	371	452	411	456	1,690	388	469	440	493	1,790
環境リサイクル事業	17	15	16	15	62	13	14	15	17	59
その他事業	13	13	10	13	50	13	11	10	12	46
合計	783	827	794	825	3,228	742	805	780	824	3,151

	2025年3月期					2026年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
	47	32	47	48	174	40	29	26	18	113
	▲18	2	▲10	9	▲17	6	20	18	17	61
	3	0	2	1	7	0	0	1	4	5
	1	1	1	1	4	2	1	0	1	4
	31	28	38	56	153	43	49	42	35	170

※営業利益合計との差異は、消去または全社費用分



国内鉄鋼事業 海外鉄鋼事業 環境リサイクル事業 その他の事業

- 中期経営計画「NeXuS II 2026」の最終年度
- 2026年3月期対比で増収減益を予想

	単位	2026年3月期			2027年3月期			増減率 対前期実績
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	
売上高	億円	1,547	1,604	3,151	1,770	1,830	3,600	+14.2%
営業利益		92	78	170	70	90	160	▲5.7%
経常利益		85	77	162	60	80	140	▲13.6%
当期純利益		54	44	99	39	51	90	▲8.8%

セグメント別通期業績予想

- 国内鉄鋼：鋼材需要が低調な中、スクラップ価格の上昇および中東情勢を背景としたエネルギー費など諸コストの増加が予想され、前期対比**増収減益**
- 海外鉄鋼：ベトナム・カナダでの堅調な利益計上および米国の収益改善を見込み、前期対比**増収増益**

売上高

(億円)

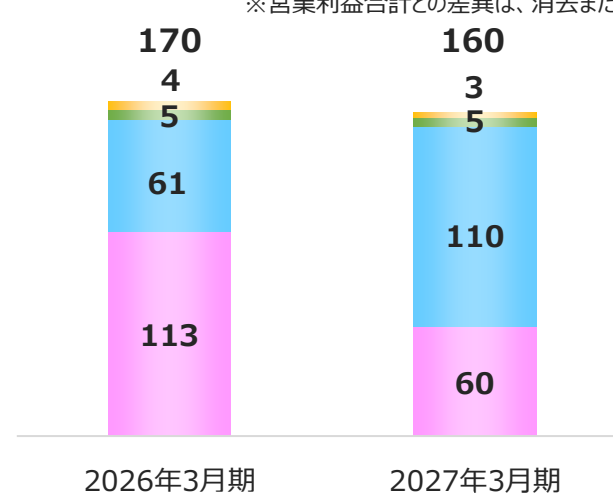
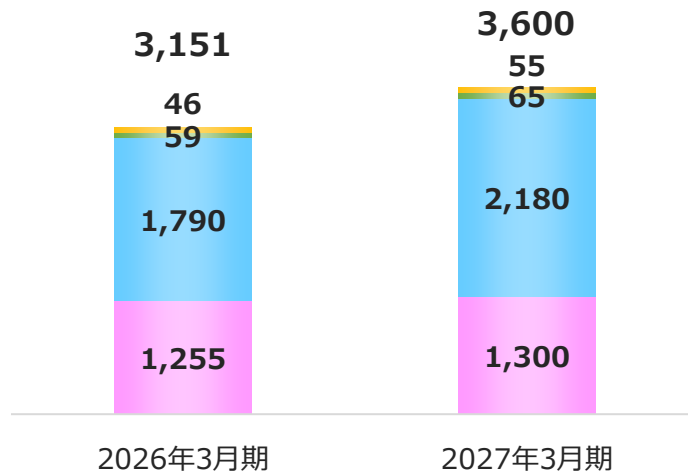
	2026年3月期			2027年3月期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
国内鉄鋼事業	637	618	1,255	625	675	1,300
海外鉄鋼事業	858	932	1,790	1,085	1,095	2,180
環境リサイクル事業	28	32	59	33	32	65
その他事業	24	22	46	27	28	55
合計	1,547	1,604	3,151	1,770	1,830	3,600

営業利益

(億円)

	2026年3月期			2027年3月期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
国内鉄鋼事業	69	44	113	10	50	60
海外鉄鋼事業	26	35	61	65	45	110
環境リサイクル事業	1	5	5	2	3	5
その他事業	3	1	4	2	2	3
合計	92	78	170	70	90	160

※営業利益合計との差異は、消去または全社費用分



国内鉄鋼事業 海外鉄鋼事業 環境リサイクル事業 その他の事業

2-1

中期経営計画「NeXuS II 2026」

2025年度までの総括/2026年度の取り組み

2025年度までの総括

国内外の事業環境変化により、各事業の業績に明暗

- 国内鉄鋼事業の**落ち込みが想定以上**
- ベトナムの**政策転換による鉄鋼需要回復**の好機を各拠点で捕捉
- 米国不調もカナダにて好業績計上、**米国大型投資**は旺盛な需要を背景に**生産能力拡大**を決定
- 環境リサイクル事業は難処理廃棄物に注力も利益水準低下
- 世界3極体制によりグループ全体では利益水準維持も課題残る

2026年度計画のポイント

事業環境の変化に対応しつつ、次の成長に向けて

- 鉄鋼需要低迷の継続が予想される**国内での3つの戦略推進**
- ベトナムの旺盛な鉄鋼需要を背景に**投資回収の局面**へ
- **米国大型投資の着実な実施**と現行設備の安定操業
- 環境リサイクル事業の利益水準向上に向けた取り組み
- 中東情勢の動向を注視し迅速かつ柔軟に対応

中計2年目（2025年度）の総括：セグメント別

KYOEI STEEL

国内鉄鋼事業の減益を海外鉄鋼事業の増益でカバーしたものの、
全体的には期初予想からの乖離あり

(億円)

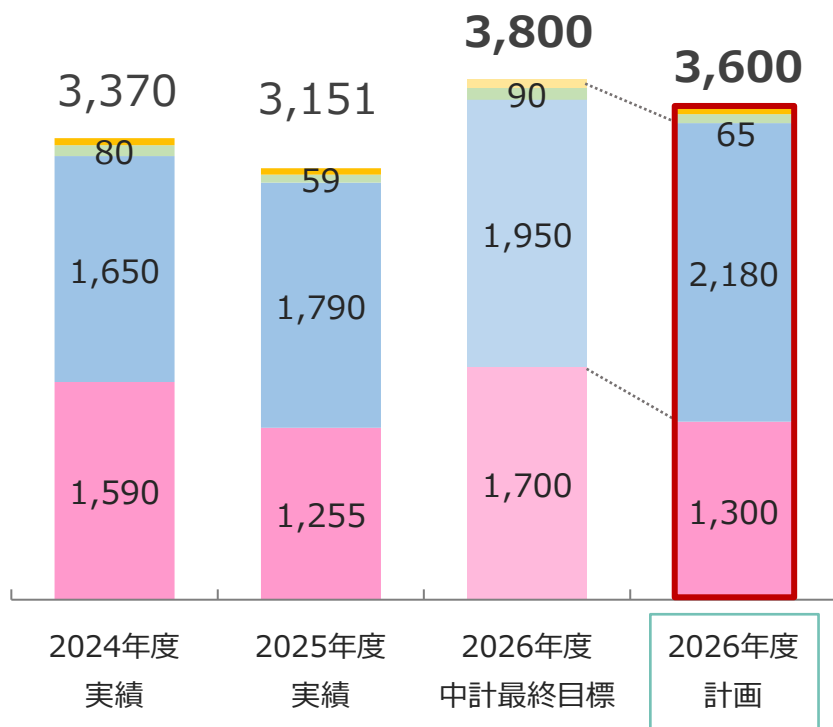
セグメント 営業利益	2025年度 期初予想	2025年度 実績	評価	理由
国内鉄鋼 事業	170	113	未達	<ul style="list-style-type: none">● 建設現場の人手不足に起因する需要低迷の長期化● 円安進行などによるスクラップ価格の上昇
海外鉄鋼 事業	30	61	想定 以上	<ul style="list-style-type: none">● ベトナム<ul style="list-style-type: none">● 需要増による業況改善に加え、VISへの投資、これまでのコスト削減の成果現出● VISハイフォン新圧延工場の完工と立上げ● 北米<ul style="list-style-type: none">● 米国：現行設備での黒字化に目途、新工場建設計画確定・着工へ● カナダ：業績安定、鉄筋主力へのシフト（細物鉄筋）、出荷能力増強完了
環境リサイクル 事業	9	5	未達	<ul style="list-style-type: none">● 医廃処理事業における競合環境激化、排出側の意識変化への対応遅れで利益低迷● フロン処理量増、鹿島との協業、エシカルスチール

	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期	2027年3月期
	実績	実績	計画	中計策定時目標
売上高	3,228億円	3,151億円	3,600億円	3,800億円
経常利益	157億円	162億円	140億円	250億円
当期純利益	108億円	99億円	90億円	175億円
出荷量	313万トﾝ	328万トﾝ	360万トﾝ	400万トﾝ体制
(国内)	145万トﾝ	138万トﾝ	140万トﾝ	160万トﾝ
(海外)	168万トﾝ	190万トﾝ	220万トﾝ	240万トﾝ
ROE	5.4%	4.8%	4.2%	8%以上
自己資本比率	57.5%	56.7%	55.9%	50%以上
ネットDELシオ*	0.10倍	0.08倍	0.30倍	0.5倍以下
配当性向	36.2%	39.7%	33.8%	30~35%
設備投資・事業投資	171億円	162億円	526億円	1,100億円／3年
		859億円／3年		

*現預金に信託銀行保管分（IRB）、譲渡性預金を含む
負債にリース債務を含む

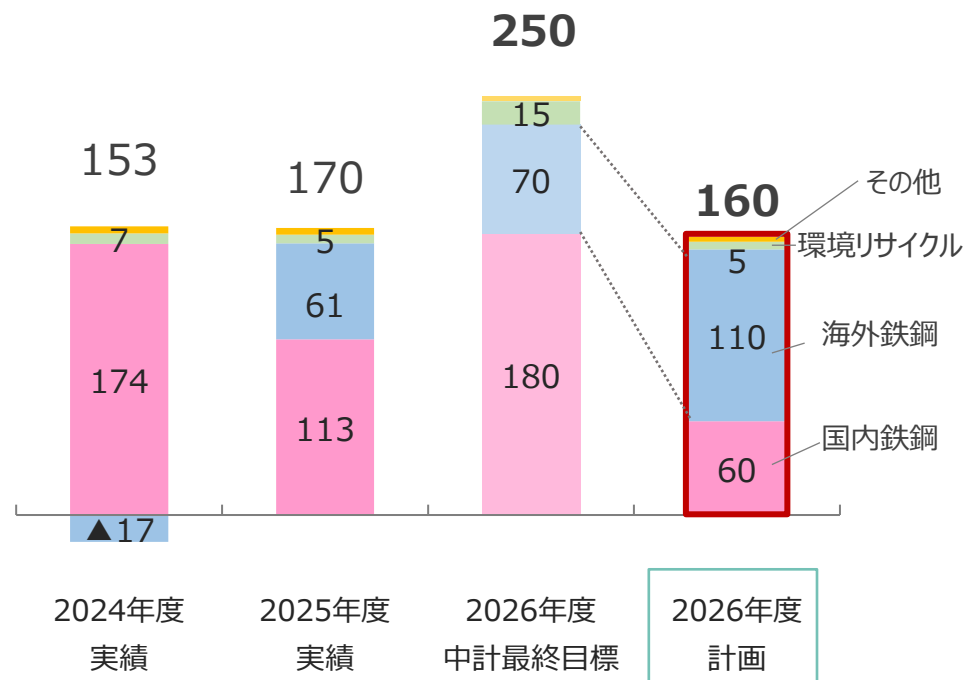
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



※ 営業利益合計との差異は消去または全社費用分

■ 各事業における中計策定時の想定との差異

● 国内鉄鋼

- 建設現場の人手不足・労働規制による**鋼材需要減少期間の長期化**とそれに伴う**需要減少の程度**
- 中東情勢の緊迫化によるエネルギー費、運賃などの**諸コスト上昇懸念**

● 海外鉄鋼

- ベトナムにおける政策の転換による**需要回復**
- 米国ビントン・スチール社の大規模設備投資計画における**完成時期の後ろ倒し**

● 環境リサイクル

- 医療廃棄物処理における競合企業の安値攻勢
- 廃棄物の排出側の意識の変化に伴う受託量減少

中計「NeXuS II 2026」の最終年度かつ次期中計の発射台の年



厳しくかつ不透明な事業環境の中で力強い持続的成長を実現するために

- 米国拠点の大規模設備投資の完遂
- 国内鉄鋼事業の収益構造改革
 - ✓ さらなるローコストオペレーションへの挑戦
 - ✓ ブランド力強化とエシカルスチールを軸とした非価格競争を推進
- 今後の飛躍に向け、国内外問わずビジネスの視野を広げる

経営理念「Spirit of Challenge」の実践で新時代へステージアップ

2-2

事業別施策

事業の成長に向けた取り組み（成長戦略）

国内鉄鋼事業

国内4事業所の連携強化と
関東圏におけるプレゼンス向上
(川上・川下戦略の実現によ
る事業基盤の強化)

海外鉄鋼事業

世界3極体制のウエイトシフト
による収益力強化
(北米事業強化と
ベトナム事業の投資回収)

環境リサイクル事業

電炉溶融処理の先駆者
としてのプレゼンス向上

成長を支える基盤強化

無形資産投資

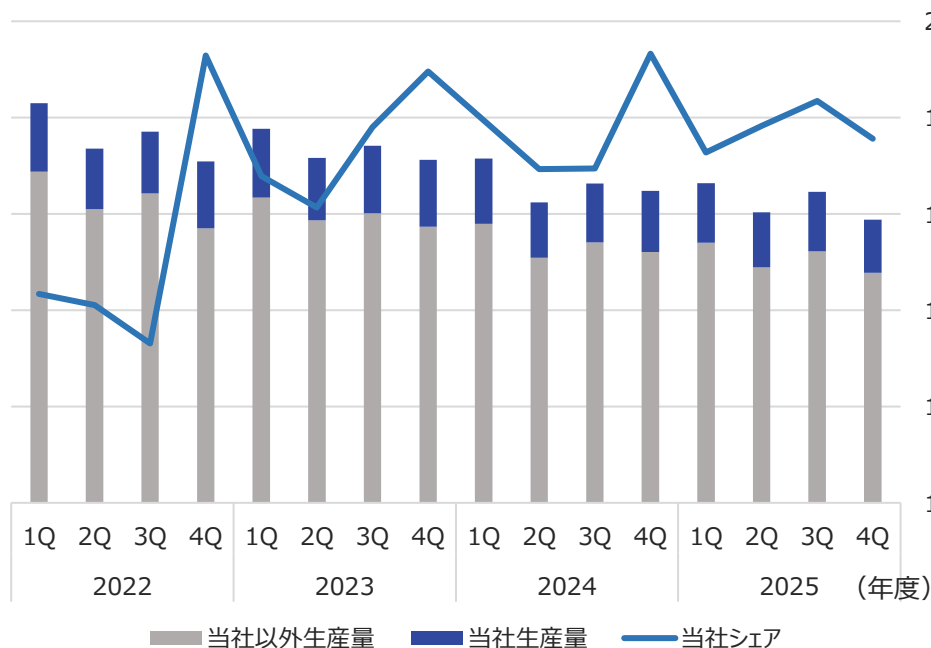
「100年企業」を
目指した
ESG経営

経営基盤の強化

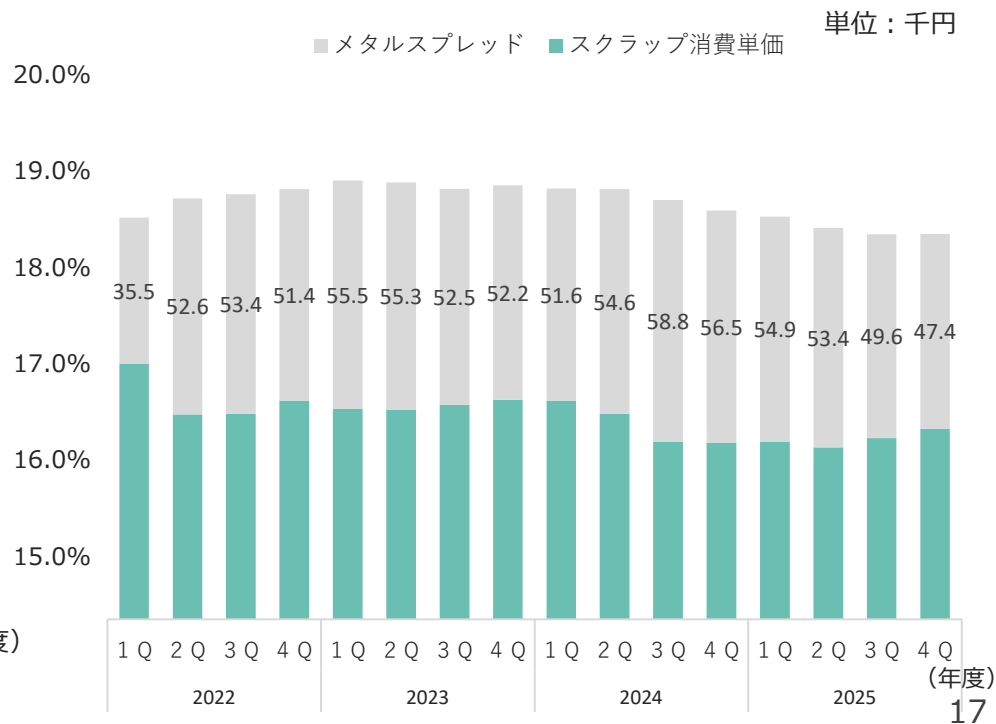
■ 事業環境

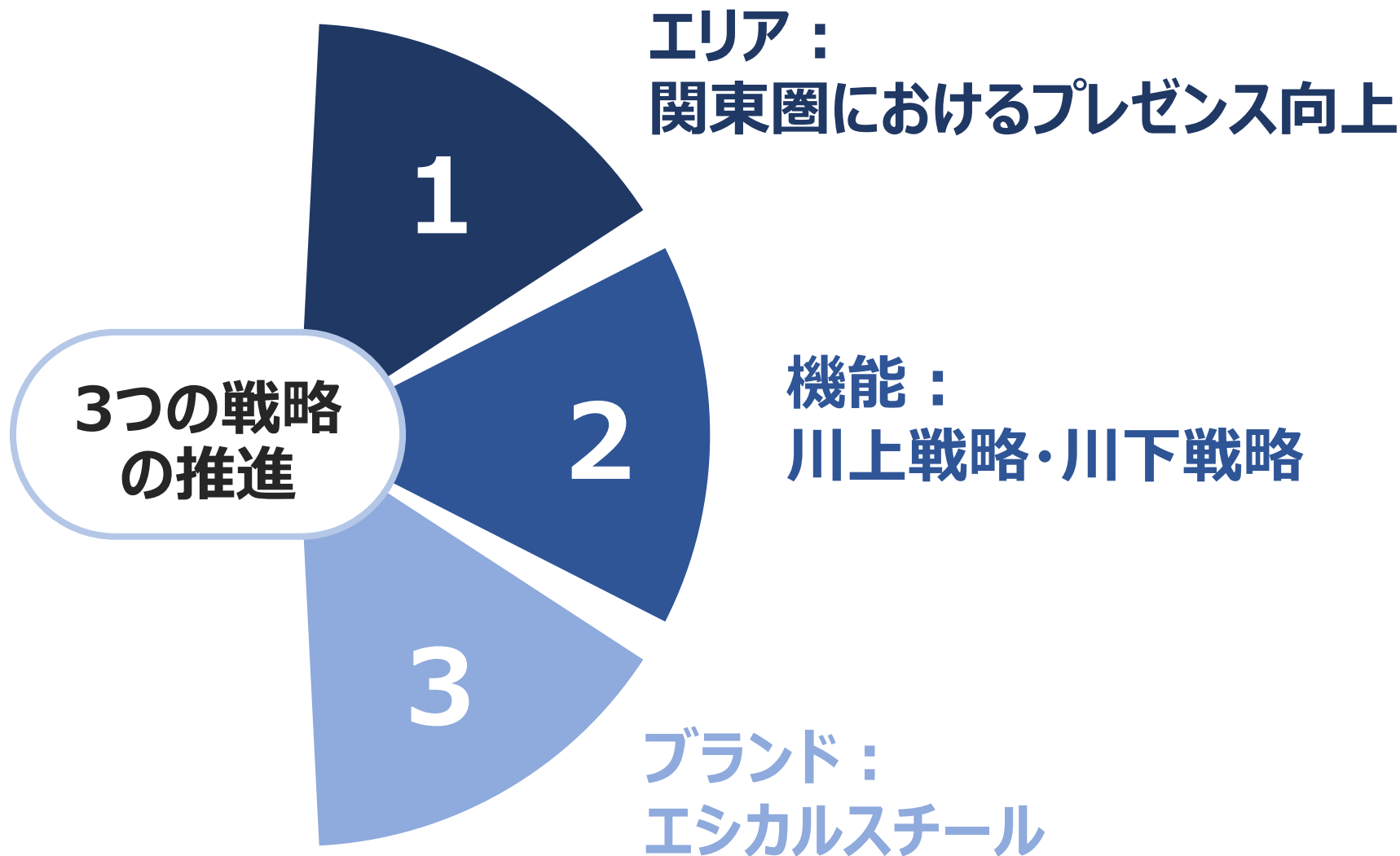
- 鋼材需要が低調に推移することが予想される中、鉄スクラップ価格は上昇基調にあり、中東情勢の緊迫化によるエネルギー費などの諸コストの増加も予想され、前期よりさらに厳しくなる見通し
- 下期にかけては案件増加の話も聞こえており、一定の回復余地ありと見ているが、急激な回復は望めず、緩やかな改善に留まる見込み

当社および当社以外生産量・当社シェア推移



スクラップ消費単価・メタルスプレッドの推移





■ エリア：関東戦略

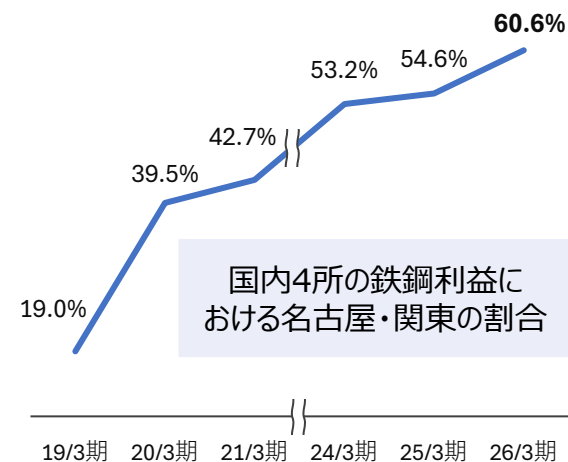
- 需要が堅調な関東エリアでのプレゼンス向上を目指し、グループ連携強化などの取り組みを推進中
- 名古屋事業所の高強度鉄筋やネジ節鉄筋の拡販



共英産業 厚木工場



共英産業 成田工場



■ 機能：川上戦略・川下戦略

- **川上**：2025年5月に子会社化した東洋商事も含めた安定的かつ効率的なスクラップ調達方法
- **川下**：共英産業・共英加工販売とのさらなる連携による加工部門の強化



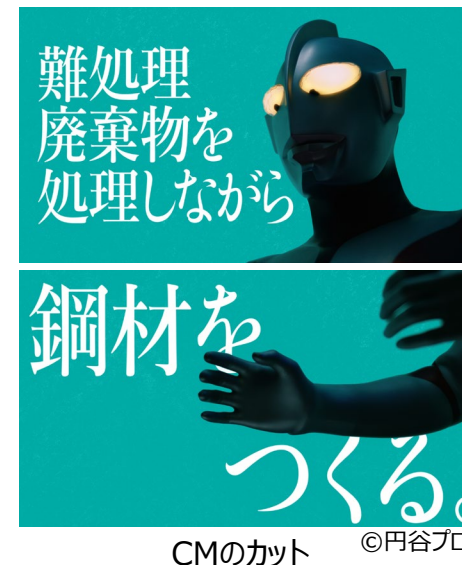
東洋商事

■ エシカルスチール認知度向上の取り組み

- 2026年2～3月にかけて地上波TVでCMを放映
- 取引先、地方自治体や地域の病院に対し、説明会を実施
- ノベルティを活用した販促活動
- 環境リサイクルと協働した営業活動を推進、新規案件獲得を目指す

■ 受注状況・今後の見通し

- 2026年4月までに約7,000トンを受注（大手メーカーの倉庫など）
- 認知度向上・理念訴求を第一に広報活動を継続
- 施主様へのより一層の営業活動を展開



認知度向上策の一環として山口東京理科大学にエシカルスチール製の自転車ラックを寄贈

■ 海外における取り組み

- 「グループ製品出荷量400万トン体制」の構築に向けて
 - ・ ベトナム：伸長する需要から「**成長の果実を得る**」フェーズへ
 - ・ 北米：今中計の方針の下、重点的に投資
 - 米国の**大規模投資の完遂**が最重要テーマ
 - カナダは安定した環境の下、より収益向上へ



● ベトナム

- ・ 北部 3 工場の連携強化
- ・ 南部はプロジェクト向け強化で需要取り込み

● カナダ

- ・ 鉄筋主体の製品ミックスにより高水準の利益を維持

● 米国

- ・ 大規模設備投資の確実な実行

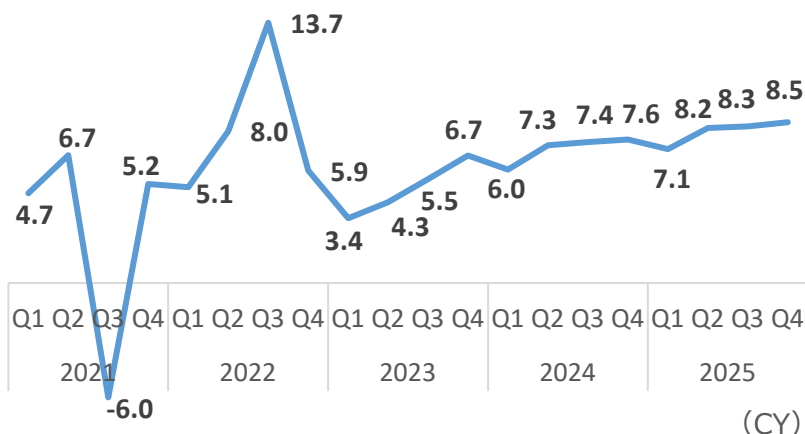
■ 事業環境

- 政府主導のインフラ投資や民間のプロジェクトを中心に需要は旺盛
- 政府の政策による中低所得層向け住宅の建設推進が建設需要を後押し
- 大手メーカーを筆頭に他社も値上げを打ち出しており、鋼材市況は上昇基調

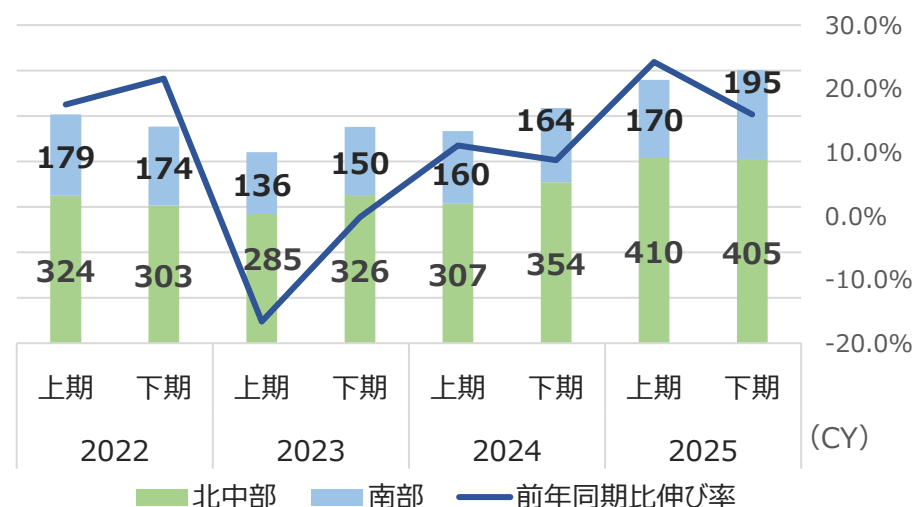
■ 今後の見通し

- 今年1月、共産党の5か年計画において、引き続き経済成長路線を維持する方針が示され、需要は今後も底堅く推移する見通し
- 中東情勢の影響により、下期にかけて電力や諸資材のコスト上昇が懸念される

ベトナムのGDP成長率(%)



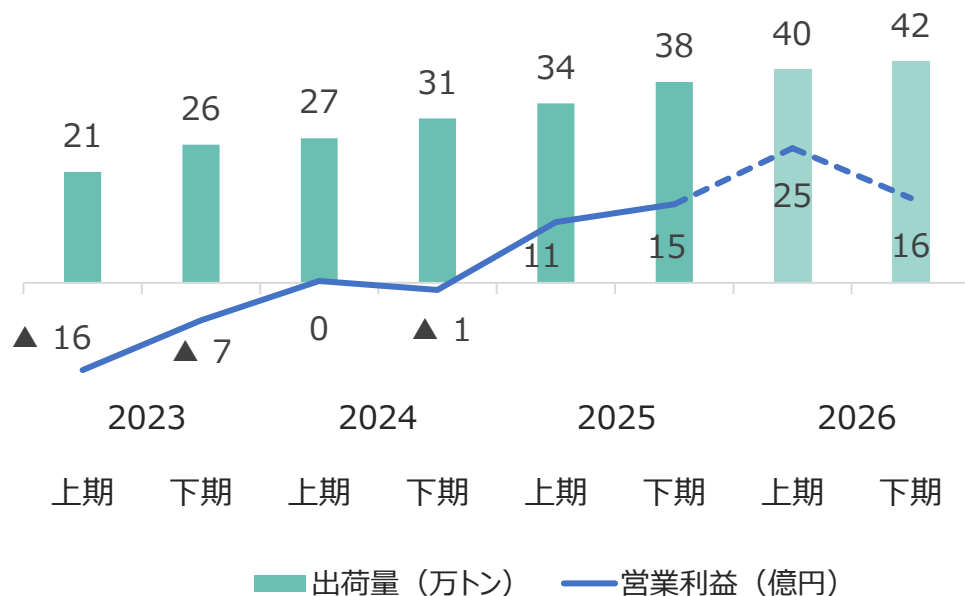
ベトナム条鋼販売量・前年同期比伸び率 推移 単位：万トン



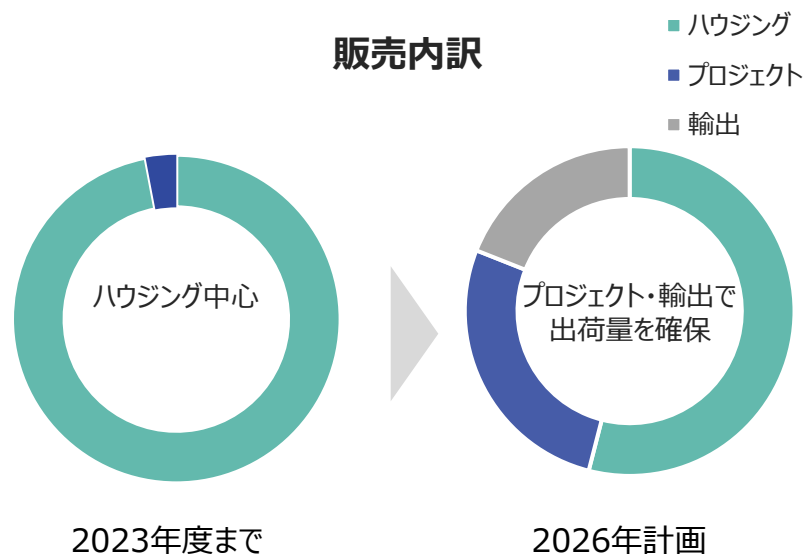
■ VKS社

- 南部のハウジング需要の回復が遅れている中、プロジェクト向けで出荷量を確保し、通期41億円の見通し
- フーコック島の大型開発、高速道路などのインフラ需要が今後も堅調、2026年度の出荷量は82万トンを見込む
- ベトナムの電炉工場ですべてスクラップのAI検収を導入、4月から稼働開始

VKS社 営業利益と出荷量 推移



販売内訳



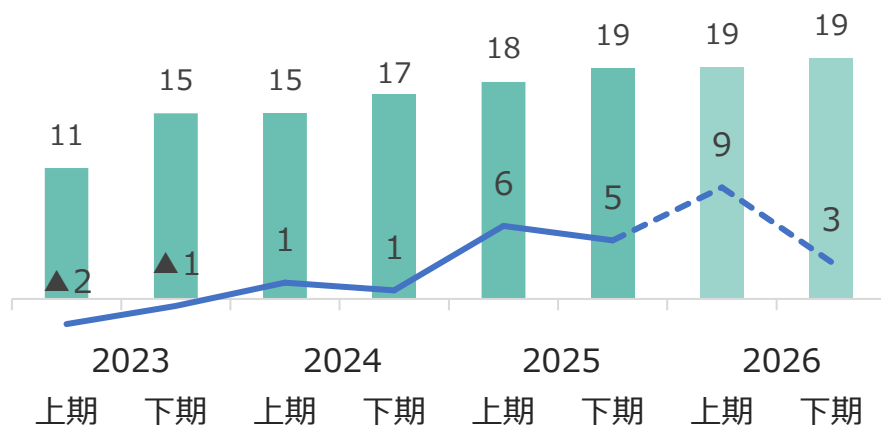
■ KSVCS社

- 政府主導の公共投資や企業の工場などのプロジェクト、ハウジングともに非常に需要が強く、在庫がひっ迫している状況
- VISのフンエン工場におけるOEMを実施、旺盛な需要を確実に捕捉し出荷量を伸ばす

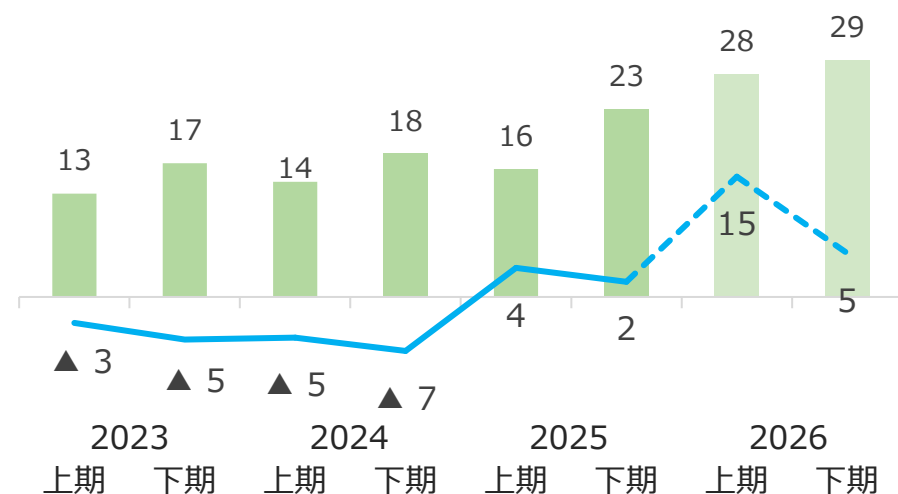
■ VIS社

- 需要は非常に旺盛で、KSVCS同様在庫がひっ迫している状況
- 北部の主要プロジェクトを抑えるほか、好調な北部のハウジング需要を捕捉すべくハウジング市場に参入、出荷量は57万トン（前期比+46%）となる見通し

KSVCS社 営業利益と出荷量 推移



VIS社 営業利益と出荷量 推移



■ KSVCS社出荷量（万トン） ■ KSVCS社営業利益（億円）

■ VIS社出荷量（万トン） ■ VIS社営業利益（億円） 24

■ K SVC社との協業

- K SVCブランドで販売する鉄筋を、VISフンエン圧延工場にて製造
→グループ連携を強化し、北部市場の旺盛な需要の捕捉・生産効率の向上を図る

■ 今後の見通し

- 新工場（＝ハイフォン工場）の順調な稼働により、生産量の底上げを目指す
- ハイフォン工場について、2026年は30万強トン生産、2027年にフル生産50万トン到達の見通し



3工場の
連携強化



VISハイフォン工場（製鋼圧延一貫）



VISフンエン工場（単圧）



K SVCニンビン工場（単圧）

米国テキサス州の建設市場は、全米最大級規模の成長が継続

■ テキサス州の建設需要

- テキサス州の商業建設支出は 2025年時点で年間約 900億ドル規模と**全米で最大水準**、他州を大きく凌駕

■ 需要の主要分野



エネルギー・電力

石油・ガス、化学、発電、送電網などの各分野において大規模な建設案件が継続



データセンター（AI）

州内各地で数十億ドル規模のハイパースケール型およびAI特化型データセンター・キャンパスの建設が進行中
それに伴い、電力・設備工事が拡大

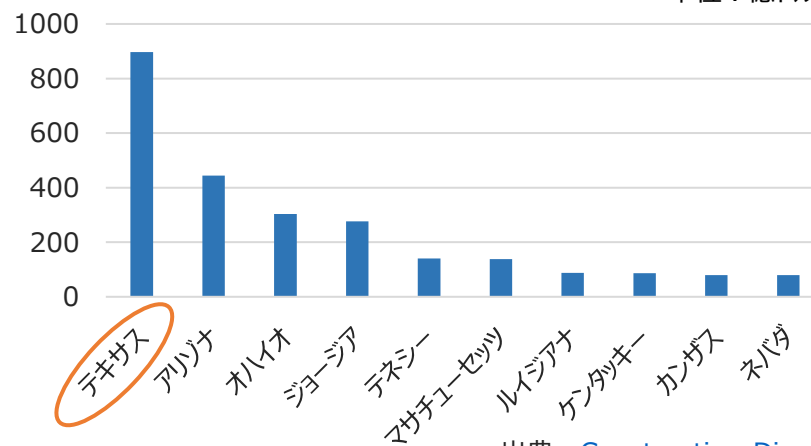


半導体・先端製造

サムスン電子、Texas Instruments を中心とした半導体・先端製造業の大規模投資が集積
クリーンルーム、電力配電、制御・自動化設備を伴う高付加価値型の建設需要が継続

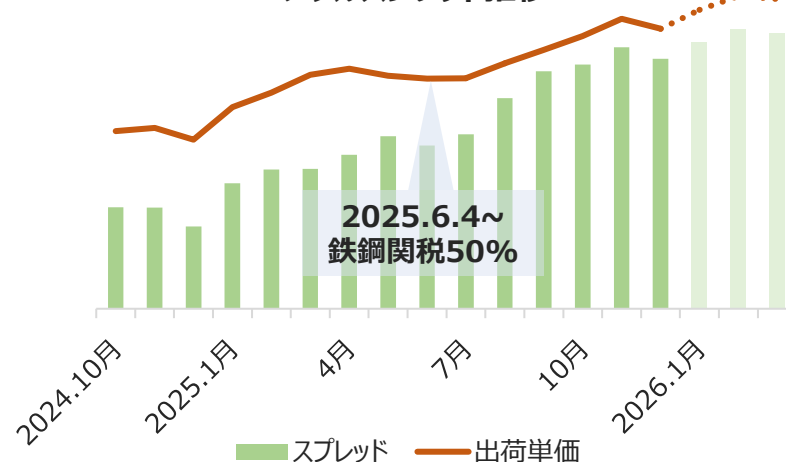
商業・工業建築に対する年間支出（上位10州）

単位：億ドル



出典：Construction Dive

ビントン・スチール社の出荷単価・メタルスプレッド推移



■ ビントン・スチール社

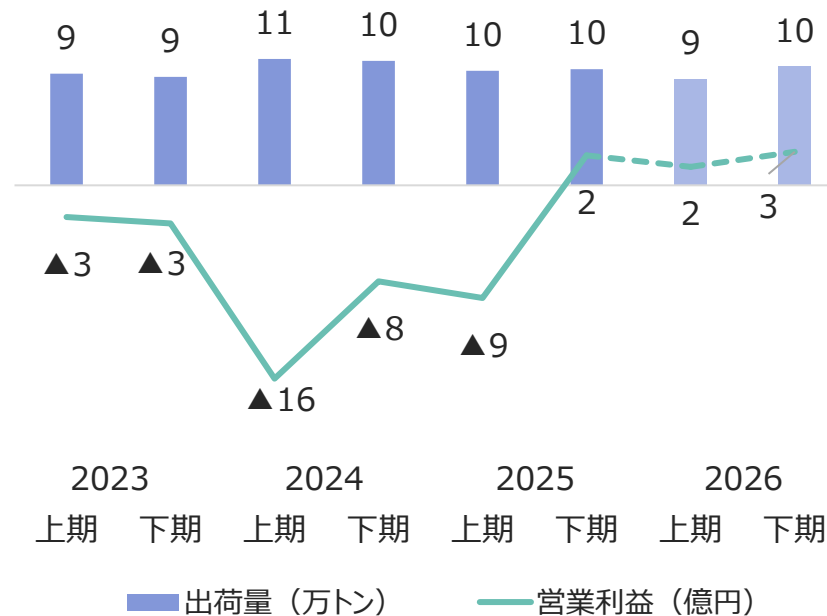
今後の見通し

- 日本人技術者の指導の下、現行の老朽化した工場をしっかりと動かし、旺盛な需要をできる限り多く捕捉
- 約500億円規模の大型設備投資の実行

設備投資計画のスケジュール

2027年	3月	製鋼工場稼働開始
	9月	圧延工場完成
	10月	商業生産開始
2028年		商業生産本格化
2029年		フル生産（33万トン）到達

Vinton社 営業利益と出荷量 推移



2026年4月時点で製鋼工場の杭打ちが完了

■ アルタ・スチール社

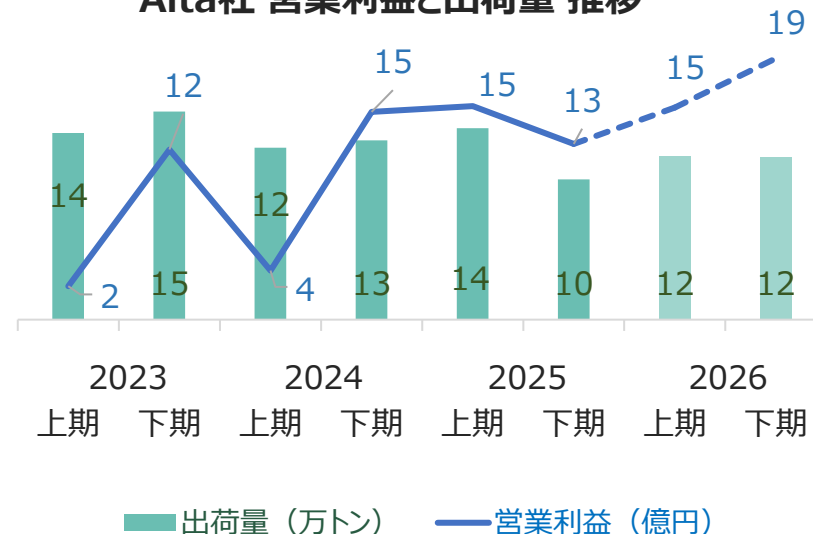
事業環境

- インフラ等の需要により、今後も**堅調な鉄筋需要**が見込まれる
- 米国関税に対する報復関税により、米国からの鉄筋輸入が抑えられ、**市況は上昇傾向**
- 鋳山向け製品は、安価輸入品の流入により、出荷量は減少傾向

今後の見通し・施策

- 鋳山向けは減少も、利益率の高い細物鉄筋を加えた**鉄筋メインの製品ミックス**により高水準の利益を維持
- 環境変化に柔軟に対応し利益確保

Alta社 営業利益と出荷量 推移



拡張工事が完了した出荷ヤード

■ 事業環境

- 医療廃棄物における競合との価格競争が継続
- 排出元のリサイクル意識の変化により、廃棄物の受託量が減少傾向

■ 今後の見通し・施策

- アスベスト・フロンなどの難処理廃棄物処理を引き続き強化
- 企画部門の強化による顧客利便性の向上
- エシカルスチールを軸とした鋼材販売部門と連携した営業活動を展開
- 昨年8月に鹿島建設と共同リリースした有害物質が付着した金属廃棄物の受け入れを強化



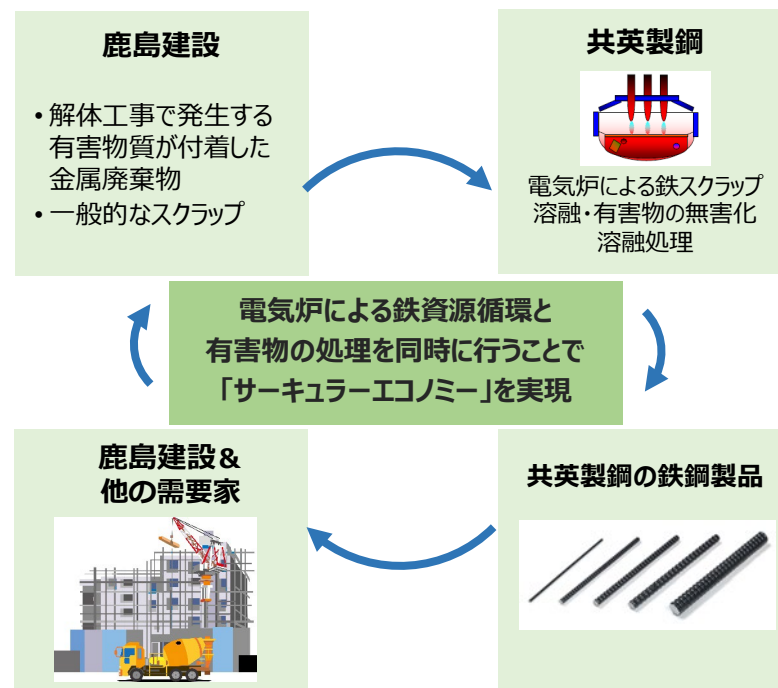
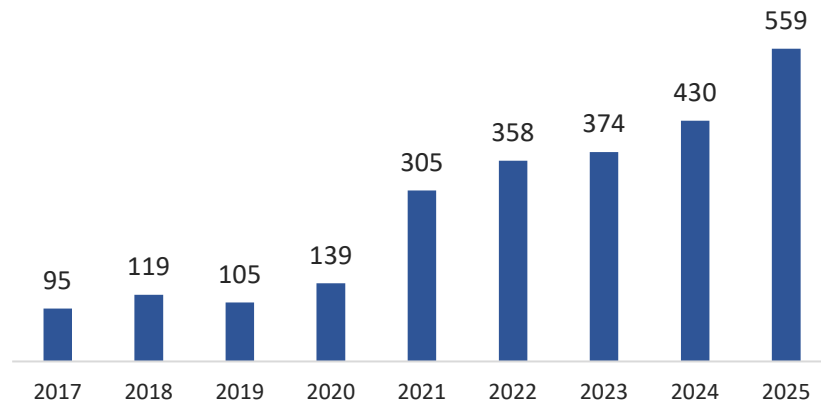
アスベスト



フロンガス

フロン等破壊量の推移（当社）

単位：トン



2-3

成長を支える基盤強化の 取り組み

中計2年目については、人的資本経営を意識した各種取り組みの結果、相応の成果があったと評価

エンゲージメントの向上を図る4つの施策テーマ

物質的メリット

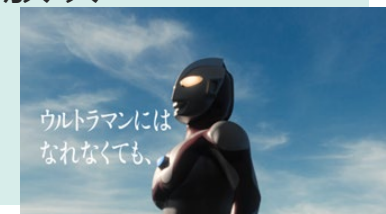
- 事務所の職場環境整備を継続
- 処遇の向上



関東事業所新事務所

企業理念への共感

- 「ウルトラマン×エシカルスチール」の地上波テレビCMの放映



©円谷プロ

連帯感・チームワーク

- JILAアワード受賞
「知識×共感」をコンセプトに組織文化を醸成する取組等が評価



受賞トロフィー

自己実現

- 層・職階ごとの研修を実施
- 技術伝承や産学連携の取り組み



女性総合職を対象にしたキャリア研修の様子

「100年企業」を目指したESG経営

・ ESGに関する取り組みは概ね計画通り進捗中

E（環境）に関する取り組み

環境技術
実証事業

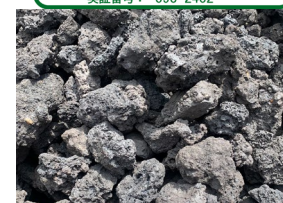
ETV 環境省

自然環境保全技術領域

第三者機関が実証した
性能を公開しています
「環境省、ETV」で検索
実証番号： 090-2402
R7年度



- LNGへの燃料転換
- 当社電気炉スラグを原料とした「キョウエイREストーン」による藻場形成・魚類の蝸集技術について、環境省が実証
- ダスト処理の亜鉛回収技術の共同研究・開発の継続



キョウエイREストーン

S（社会）に関する取り組み



- メスキュード医療安全基金やふるさと納税などの寄付を実施
- 遊休地でのオリーブ植樹活動の継続
- 筑波大学芸術学系との共同研究を通じたモニュメント設置
- 障がい者雇用：珈琲ドリッパーの製造作業を行う「珈琲香房にじいろ」(2025年～)を運営

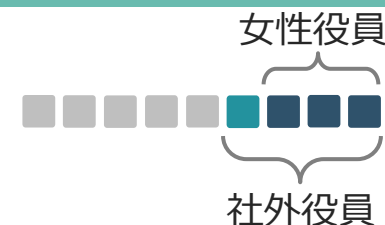


モニュメント「エシカル・リンク」
(関東事業所)

G（ガバナンス）に関する取り組み



- 取締役会の女性役員増員予定（2名→3名）
→取締役会の多様性の確保
- 監査役増員予定（4名→5名）



CO₂排出量削減に向けた取り組み

- 2025年度のCDP調査「気候変動」「水セキュリティ」分野で「A-」評価を取得

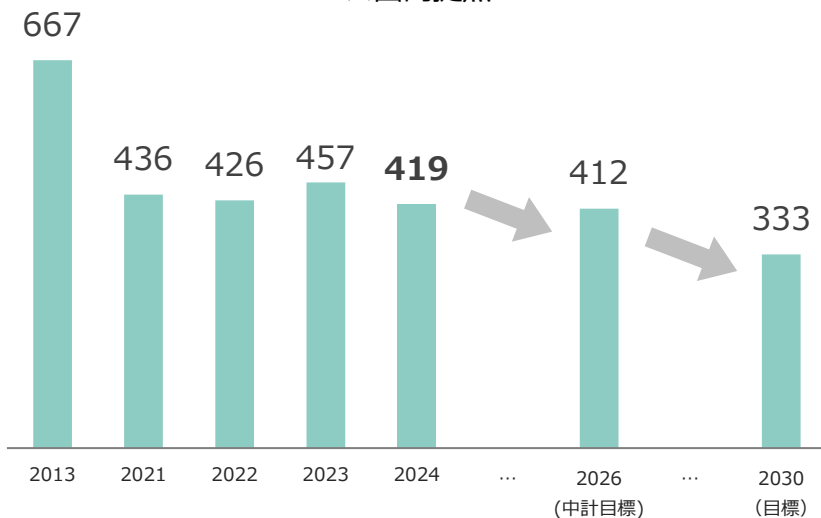


女性総合職・管理職比率

	2024年度	2025年度	2026年度目標
女性総合職	14.2%	16.3%	15.0%
女性管理職	3.6%	3.7%	3%以上

CO₂排出量 (千t-CO₂)

※国内拠点



教育研修費・社会貢献支出額

	2024年度	2025年度	2026年度目標
教育研修費/人	9.8万円	14.4万円	15万円
社会貢献支出額	0.52%	0.48%	0.5%程度

- 経営基盤強化の取り組みも計画通り進捗中

項目

主な進捗

エンジニアリング力の強化

- 米国拠点の老朽化設備の技術指導および新設工場の建設に注力

ものづくり起点のDX推進

- AI技術によるスクラップの検収システムの実用化
- 電子ミルシート「Mill-Box」の導入
- 熱中症対策：ヘルメットに装着する脈拍・体温等の測定機器を導入



財務基盤の強化

- 財務格付けA格維持
- 自己資本比率 57.5% ⇒ 56.8% (2024年度⇒2025年度)
- ネットDEレシオ 0.10倍 ⇒ 0.08倍*

*現預金に信託銀行保管分 (IRB) ・譲渡性預金 (有価証券) を含む

- 成長戦略の実現と期待値の向上によるROEとPERの上昇によりPBRを改善

現状

PBR 0.37倍
(26年5月8日時点)

ROE 4.8%
(26年3月期)

当社のPBRが低い理由

- 海外事業改善の持続性への不透明感
- 当社独自の強み (= 他社との差別化) の浸透不足

改善策

PBRの改善
(株価純資産倍率)

=

ROEの改善
(自己資本利益率)
⇒ 8%以上

×

PERの向上
(株価収益率)

成長戦略の実現

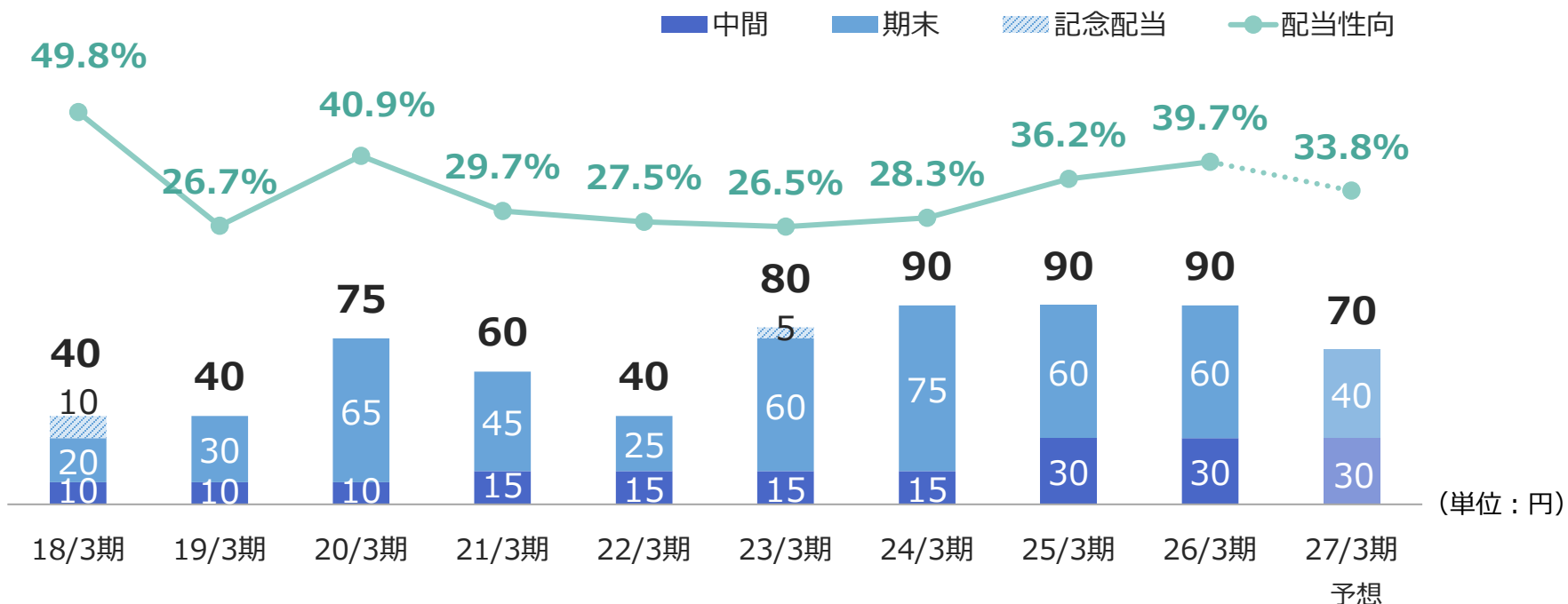
- 中期経営計画の着実な実行
⇒ 海外における設備投資計画の実行

期待値の向上

- 人的資本投資の充実
- ブランド戦略
- 投資家との積極的な対話

25年度：財務状況・特別損益の性質等含め総合的に判断

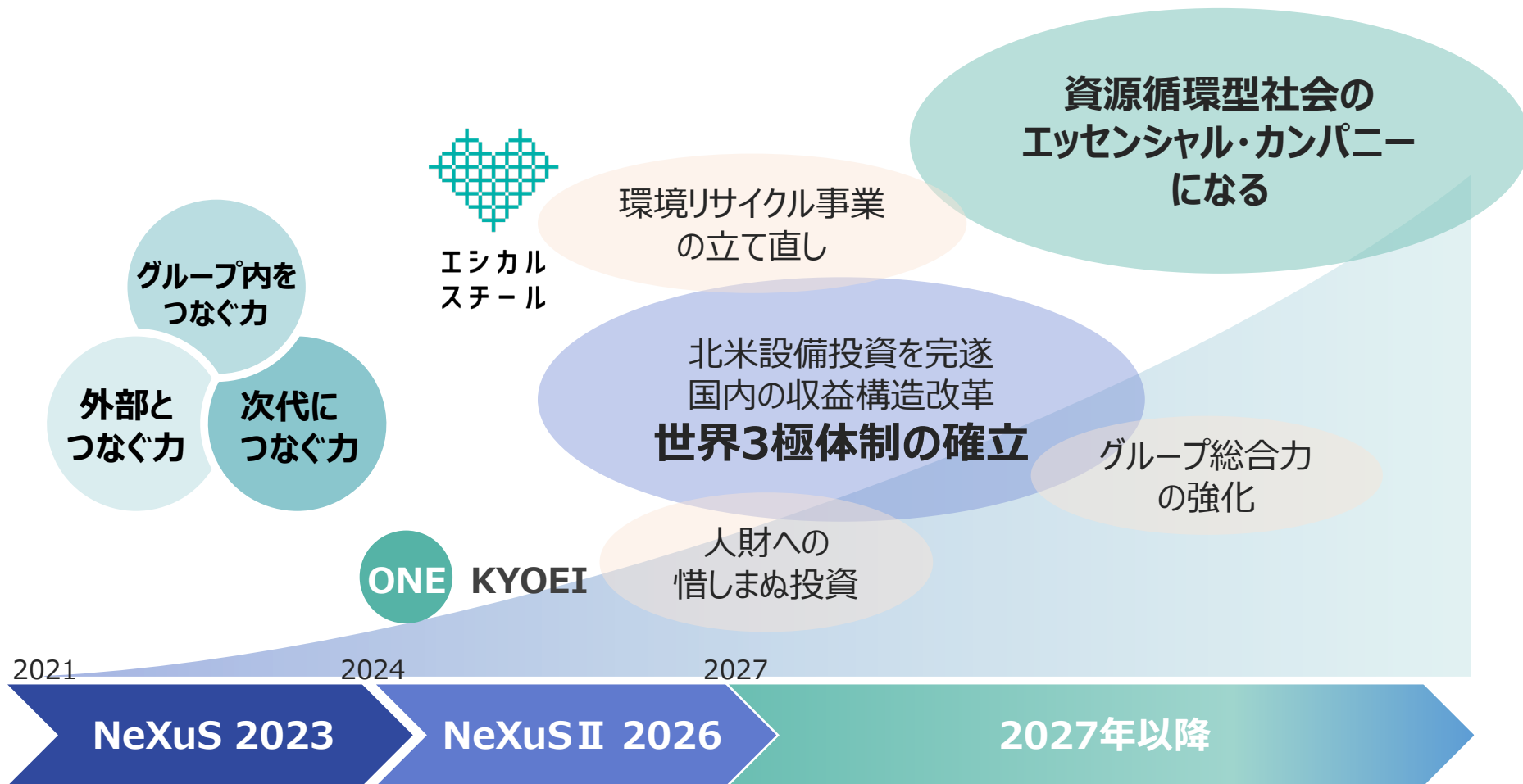
26年度：配当方針に基づき予想



配当方針

- ・ 企業価値向上に向けた内部留保を確保しつつ、安定的な配当を継続
- ・ 配当性向 (連結)：30～35%
- ・ 1株当たり年間配当の下限は30円

国内事業が厳しい環境にある中、海外事業の収益力を確固たるものにし、
早期の世界3極体制の確立を目指す



NeXuS

▶▶▶ Next Success

次代の成功を目指して

これまでの「鉄づくりを通じて社会に貢献する」企業から、
これからの「サーキュラー・エコノミー社会」の中で
資源循環型事業を通じ、社会の発展と地球環境との調和に貢献する
“エッセンシャル・カンパニー”を目指します

免責事項

- 本資料に掲載されている情報には、当社に関する将来予測や業績予想が記述されていますが、これらは潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおり、将来の業績を保証するものではありません。業績結果が経営環境の変化などによって、見通しと異なったものになる可能性があることをご承知おきください。
- これらの情報を利用することで生じたいかなる損失や損害に対しても、当社は一切責任を負うものではありません。

3

參考資料

財務KPI

経常利益

250億円

出荷量

400万トン体制
国内160万トン・海外240万トン

ROE

8%以上

自己資本比率

50%以上

ネットDELシオ

0.5倍以下

配当性向

30～35%

非財務KPI

CO₂排出量

△50%

(2013年度対比2030年目標)

女性総合職比率

15%以上

女性管理職比率

3.0%以上

労働災害

0件/年

教育研修費/人

15万円
(2022年度の1.5倍)

社会貢献活動支出額

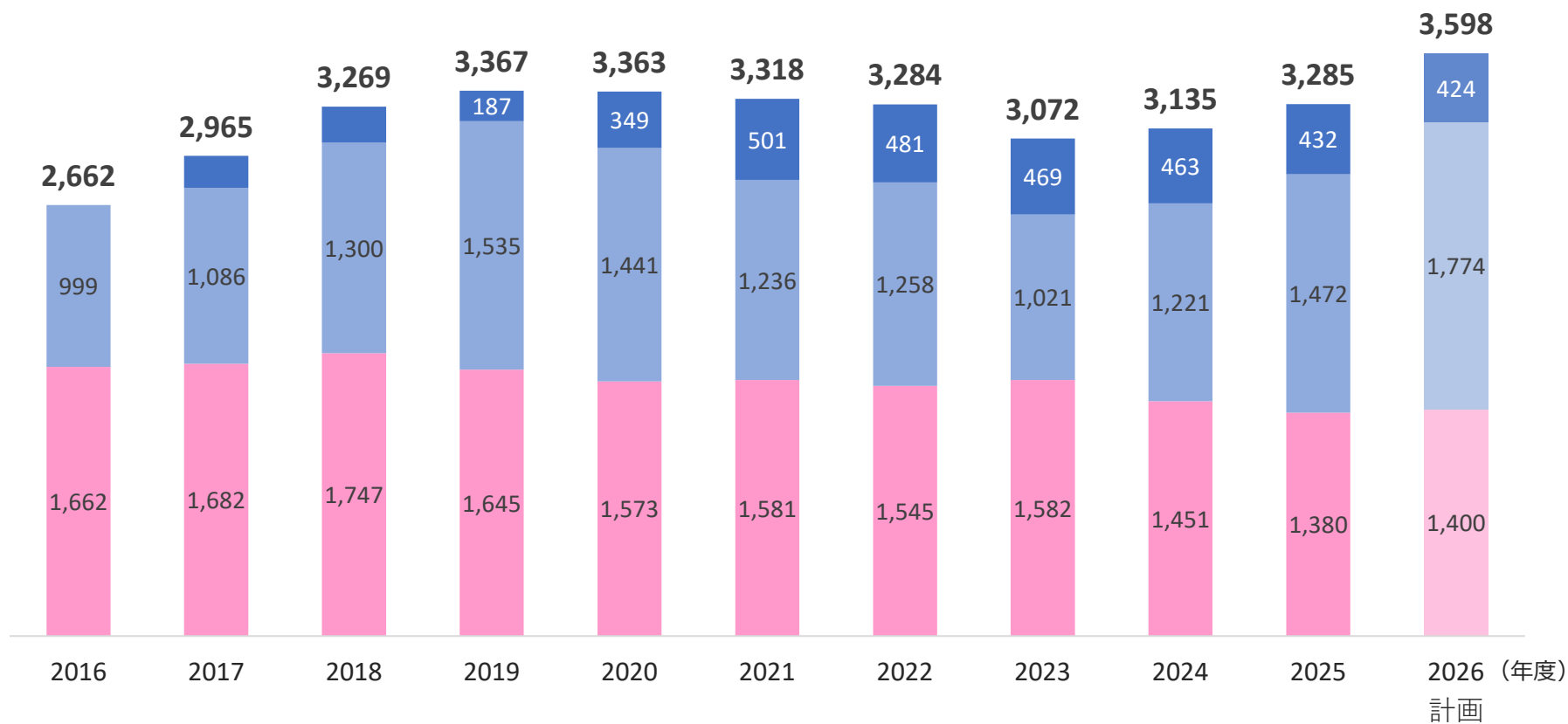
連結当期純利益

0.5%程度

参考：製品出荷量推移：国内・海外

(千トン)

■ 国内 ■ ベトナム ■ 北米

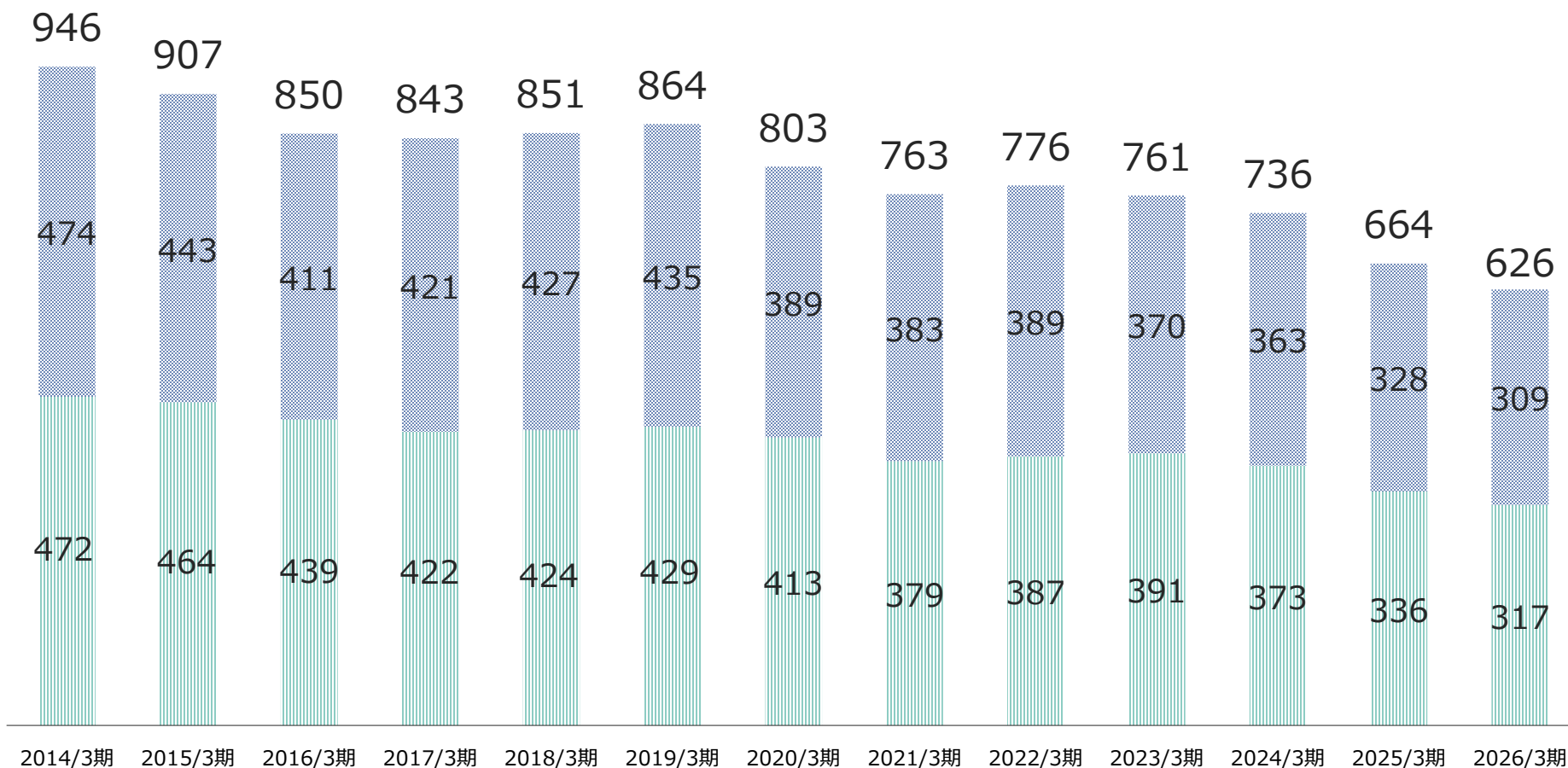


参考：国内鉄鋼事業：全国小形棒鋼生産量推移 KYOEI STEEL

■ 2025年度の全国小形棒鋼生産量は626万トン、前期対比▲5.7%

■ 上期 ■ 下期

(万トン)



(出典) 日本鉄鋼連盟資料

通期の前提数値

前期同様に鋼材需要は低調に推移すると予想され、出荷量は前期と同水準の**140万トン**
 製品価格の引き上げに加え、スクラップ価格の上昇が落ち着くと見て、下期にかけスプレッド改善の見通し

	2026年3月期			2027年3月期			増減		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	対上期実績	対下期実績	対通期実績
製品出荷量 (千トン)	690	690	1,380	679	721	1,400	▲ 12 (▲1.7%)	+32 (+4.6%)	+20 (+1.4%)
メタルスプレッド (千円/トン)	54.1	48.5	51.3	47.0	52.5	49.8	▲ 7.1 (▲13.1%)	+4.0 (+8.3%)	▲ 1.5 (▲2.9%)

※1 メタルスプレッド = 製品出荷単価 - スクラップ消費単価

※2 比較欄の上段は増減数量、カッコ内数値は増減比率

事業環境と各社の状況

- ベトナム南部：南部では、前期に引き続き公共投資や民間のプロジェクトを中心に需要は旺盛
一方、ハウジングの本格的な需要回復には一定期間を要する見込み
VKS社は、プロジェクト向けや輸出で出荷量を確保し、前期対比増加
前期対比増益の見込み
- ベトナム北部：北部では、公共投資や民間のプロジェクト、ハウジングにおいて旺盛な需要が継続
KSVC社は、引き続き安値ビレットの調達に努めるとともに、VIS社フンエン工場と連携したOEM
を実施、過去最高を記録した前期を上回る水準の出荷量となる見通し
VIS社は、新圧延工場の稼働により、出荷量は前期対比増加を見込む
需要が旺盛なハウジング市場にも参入、VISブランドを効果的に活用しシェア拡大を目指す
- 3拠点とも中東情勢の影響により、下期にかけて電力や諸資材のコスト上昇が懸念される

ベトナム拠点 (南部・北部)

	単位	2026年3月期			2027年3月期			前期対比	
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	億円	543.7	640.4	1,184.1	761.4	757.2	1,518.6	+334.5	28.2%
営業利益		21.0	21.4	42.4	49.4	24.4	73.8	+31.4	74.0%
製品出荷量	千トン	674	799	1,472	867	907	1,774	+302	20.5%

※ 海外子会社は12月決算

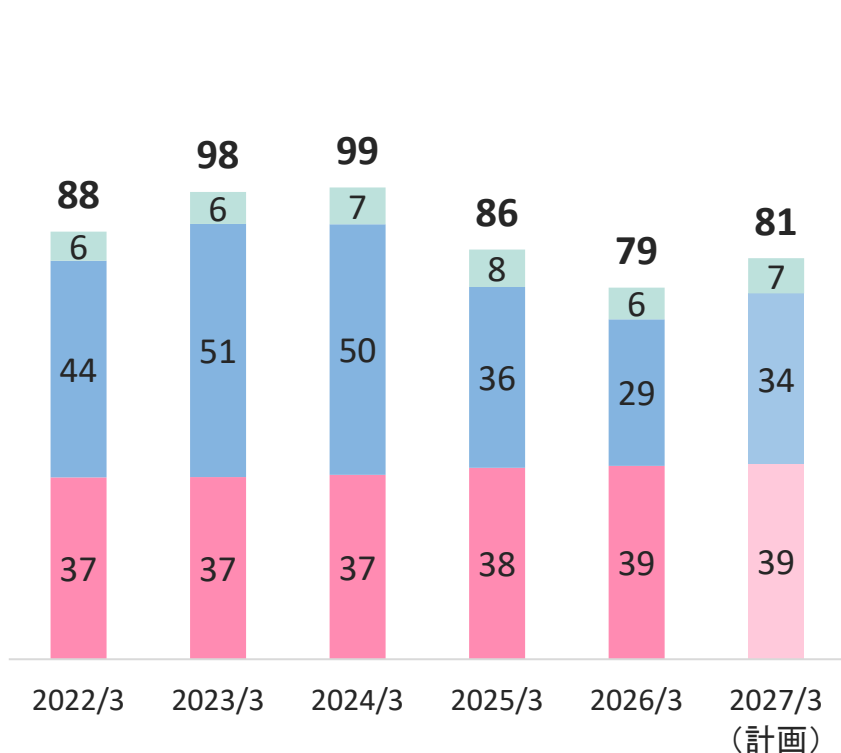
事業環境と各社の状況

- 米国：エネルギー関連施設・データセンター・半導体工場などを中心に大型プロジェクトが集中しており、鋼材需要は引き続き高水準で推移
日本の技術支援の下、現行工場の操業安定化により収益プラスとなる見込み
- カナダ：インフラ等の需要により、今後も堅調の鉄筋需要が見込まれる
利益率の高い鉄筋の生産を増やし、前期に引き続き高水準の利益を維持する見込み
- 2社とも中東情勢の直接的な影響は限定的

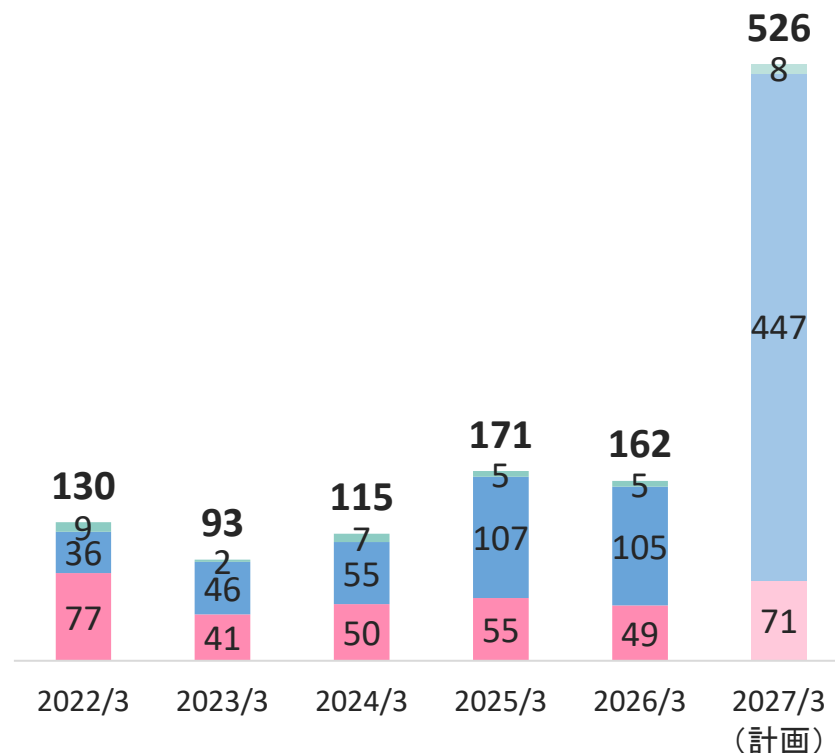
	単位	2026年3月期			2027年3月期			前期対比	
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	億円	315.5	292.2	607.7	324.0	339.6	663.5	+55.8	9.2%
営業利益		6.1	15.2	21.3	16.9	21.7	38.6	+17.3	81.2%
製品出荷量	千トン	234	198	432	207	217	424	▲ 8	▲ 1.9%

参考：減価償却・設備投資の推移

減価償却 (億円)



設備投資 (億円)



■ 国内鉄鋼 ■ 海外鉄鋼 ■ 環境リサイクル・その他

■ 国内鉄鋼 ■ 海外鉄鋼 ■ 環境リサイクル・その他

※ 合計との差異は調整額

参考：当社グループの国内拠点



山口事業所

異形棒鋼（全サイズ）、構造用棒鋼、
小形形鋼（平鋼、Iバー、等辺山形鋼）



枚方事業所

異形棒鋼（細物）



共英産業(株)

鉄筋加工、鋼材販売ほか



共英マテリアル(株)

スクラップ集荷・加工



(株)吉年 鋳物製造



(株)共英メソナ

環境リサイクル事業



関東事業所

異形棒鋼（細物）



名古屋事業所

異形棒鋼（全サイズ）、
ネジ節鉄筋、高張力鋼、丸鋼

その他の国内拠点

- ・ 共英リサイクル(株)
- ・ 共英加工販売(株)
- ・ みどり精密工業(株)
- ・ (株)東洋商事
- ・ 中山鋼業（持分法適用）



参考：当社グループの海外拠点（ベトナム）



1 ベトナム・イタリー・スチール社（VIS社）

ベトナム フンエン省

事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、線材）

生産能力：製鋼45万トン/年、
圧延80万トン/年



製鋼工場（ハイフォン）

2 キョウエイ・スチール・ベトナム社（KSVC社）

ベトナム ニンビン省

事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、線材）

生産能力：圧延30万トン/年



3 ビナ・キョウエイ・スチール社（VKS社）

ベトナム ホーチミン市

事業内容：鋼材の製造・販売（棒鋼、丸鋼、形鋼、線材）

生産能力：製鋼70万トン/年、圧延90万トン/年



4 チー・バイ・インターナショナル・ポート社（TVP社）

ベトナム ホーチミン市

事業内容：港湾事業



5 ビナ・ジャパン・エンジニアリング社（VJE社）

ベトナム ハイフォン市

事業内容：鋳鉄製品製造・販売

生産能力：9,000トン/年





1 アルタ・スチール（AltaSteel）社

カナダ アルバータ州

事業内容：鋼材の製造・販売、
スクラップメタルの処理・販売

生産能力：製鋼30万トン/年
圧延27万トン/年

設立年：2020年（創業は1955年）

アルタ・スチール
（アルバータ州）

1

ビントン・スチール
（テキサス州）

2



2 ビントン・スチール（Vinton）社

米国 テキサス州

事業内容：鋼材の製造・販売

生産能力：製鋼25万トン/年、
圧延20万トン/年

設立年：1962年